



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



Yet...Joy! Hope! Gratitude!

WYD参加者とも心を一つに

今年のザビエル上陸記念祭

聖母被昇天の祭日の八月十五日(月)、聖フランシスコ・ザビエルの日本上陸を記念する「ザビエル上陸記念祭」が鹿兒島カトリック・ザビエル記念聖堂であった。今年の記念祭はここ数年青年主催で実施されていたザビエルウオークを記念祭から切り離し七月二十四日(日)に行い、また祝賀会を茶話会に変更するなど規模を縮小したものであった。

午後二時から、鹿兒島ユネスコ協会(田中弘允会長)と八年前から協力して続けて「平和の鐘を鳴らそう」で始められた式典には、百八十人あまりの信者が駆けつけ、まず東日本大震災の犠牲者たちのために黙祷をささげた。参加者たちはその後、田中鹿兒島ユネスコ協会長と寝占敦之神父の講話を聞き、本当の平和の意味を確認し、また終戦記念日でもあるこの日、「本当の平和を築くにはまず一人ひとりの心に平和の岩を築くことが大切だ」とのメッセージを鐘の音に乗せて鹿兒島の街に響かせた。その後のミサは、十一人の司祭団でささげられた。ミサで説教した小川靖忠司教総代理は、この日の福音から神と人とのかわりに「人間のつまらなさにも目を留めて下さった神を賛美したい。そのつまらなさの中にも平和の種はある。私たちはその種を見つけて育てる使命がある」と述べた。またワールドユースデー(WYD)参加中の郡山司



教から届けられた鹿兒島の青年のメッセージを読み上げ、「ザビエルの故郷に今鹿兒島の青年たちが派遣されている。彼らとも心を一つにしてミサを進めて行こう」と参加者たちに訴えた。ミサ後は教会一階ホールで茶話会が行われた。茶話会では、寝占神父が七月に足を運んだ東日本大震災被災地の様子を報告したほか、鹿兒島ユネスコ協会や

教から届けられた鹿兒島の青年のメッセージを読み上げ、「ザビエルの故郷に今鹿兒島の青年たちが派遣されている。彼らとも心を一つにしてミサを進めて行こう」と参加者たちに訴えた。ミサ後は教会一階ホールで茶話会が行われた。茶話会では、寝占神父が七月に足を運んだ東日本大震災被災地の様子を報告したほか、鹿兒島ユネスコ協会や

「今回のWYDで私たちは鹿兒島の守護者聖フランシスコ・ザビエルの故郷であるスペインにきました。そして、サンチャゴへの巡礼に参加し、日本だけでなく色々な国の青年やそれ以外の人々と出会うことができました。百キロという長い道のりを歩き、人々を通して、辛く苦しいときでも、主イエスに見守られていることを感じることができました。

立正佼成会の出席者が紹介されるなど、学びと交流のひとつとなった。WYD教区参加者からのメッセージは以下の通り。

新風

先日、NHKの人気番組「鶴瓶の家族に乾杯」がパラオ共和国の取材を行っていた。最初に登場したのは子どもたちだった。その中に何とも言えない、愛らしい微笑を持つ男の子がいた。鶴瓶さんは、その子に吸い寄せられるように近づき、言葉のない挨拶を交わす。それをきっかけにお父さんと冗談を言い合い、お母さんの温かいもてなしに繋がっている。

幼子から

白百合で幼稚園バスを運転していたとき、両親から離れるのが辛くて毎日泣きながら乗ってくる年少さんを毎回「大丈夫だよ」と励まし続けたのは、年長さんの女の子だった。今でも「大丈夫」という言葉が脳裏から離れない。

イエスは、弟子たちの中に一人の子どもを立たせて言われる。「心を入れ替えて子どもになることができなければ、決して天の国に入ることはできない。私の名のた

9月11日・テーマ「福音宣教」 教区の日をみんなで

9月11日(日)ザビエル教会で開催される今回の教区フェスタでは「教区の日 特別講演」と題し、韓国の教会を牽引しているノルベルト・車神父(仁川教区・未来司牧センター)のお話をお聞きすることになりました。概要は次の通りです。大勢の来場をお待ちいたします。

- ① 10時30分〜11時40分 オリエンテーションと講演
② 13時〜15時40分 午後の講演
③ 16時 司教ミサ

東日本大震災

長崎教会管区の動き

六月十三日(月)開催の司教総会において、全国の教会が管区単位で東日本大震災被災沿岸部を直接支援していくことが決まった。この決定に基づき長崎教会管区に属する鹿兒島教区は岩手県の復興に協力することとなった。

七月十二日(火)長崎教会管区の五つの教区の担当者(鹿兒島教区は寝占敦之神父)は現地視察の後、岩手県上閉伊郡大槌町の一施設(寿ビジネスホテル)を借り、ここにベースキャンプを設けることとした。今後は、先日開設された長崎大司教区本部のサポートセンターから様々な情報及びボランティア要請についての情報が入ることになっている。

また、鹿兒島教区本部にも被災地に足を運び視察、或いはボランティアなどした方々などから情報が寄せられており、担当者は「ありがたいこと。今後もどしどし情報を送って欲しい」と述べている。(四面に關連記事掲載)

YET

七月下旬「先輩、元気ね？」と教区本部を訪ねてきたのは長崎からの神父さん。小神時代、一学年後輩だった人だ。暫くすると「おっ！ともう一人。こちらは同じ学年だった。そんなこんなで、六人の神父さんが集合した。この六人、長崎に大分、そして福岡と働く場所はそれぞれ。でもこうして集まってきた▼「あんたは皆が自分のように強いと思っっている」これは「権力者にもはつきり意見しないとだめ。我慢しても何も変わらない」と血気盛んに講釈を垂れた自分に、穏やかな木村神父さんが発した言葉だ。そしてそんな神父さんこそが難病と闘い、最後まで頑固に柔和に生き抜き、三年前、五十五歳の生涯を閉じた▼たぶんある時期から「死」を意識し、それでも復帰の準備をしていたと思う。だから、僕をギター購入に走らせた。もちろん動かなくなってきた体の中で、まだ動かしやすい指を使うことで生きがいを感じるために懸命に生きようとしていた▼本部に集まった六人の神父さんは、司祭叙階銀祝を迎えたメンバーだ。カテドラルの小聖堂でミサをささげ、そして唐湊の司祭墓地へと向かった。出発間際にもう一人の後輩だった神父さんが「これば見て。作つたよ」と銀祝記念カードをくれた。連名で作ったそのカードの一番下には、無念にもこの記念を迎えられなかった「ミカエル木村敏彦」の名が刻まれていた。亡くなってもそこにいた。この人こそ強かったと思ひ知らされた。

1・キリスト教伝来前史

日本にキリスト教が伝来したのは、天文十八年(一五四九年)、イエズス会宣教師フランシスコ・ザビエル神父の来日に、端を発しているといわれています。

しかし、これ以前に、既に、キリスト教は伝来されていたのである、という説も、伝えられています(1)。その説の提唱者の一人は、千葉大学教授のケン・ジョセフ氏(アメリカ国籍)です。氏は、「自分の祖先はアッシリア人景教徒(ネストリウス教徒)であった秦氏である」と証言されておられます。その著作において、こう述べられておられるのです。

「キリスト教は、大和朝廷の時代に朝鮮から渡来した秦(はた)氏によってもたらされた。秦氏は、キリスト教の一教派ネストリウス派景教のキリシタンであった。秦氏は、医学の心得があり、病人の治癒をしながらキリスト教を布教し、大和朝廷に仕えるようになった」

の愛について、語った。奈良・興福寺にある悲田院、施薬院は、病者のために光明皇后が建てられた病者の施設であった」

「大正天皇の皇后であった貞明皇后が救済活動を積極的に進められたのも、光明皇后の影響を受けたものであった」

(注1) ケン・ジョセフ『隠された十字架の国日本―逆説の古代史』(徳間書店)二〇〇〇年。『隠された聖書の国・日本』(徳間書店)二〇〇八年。

秦とは、漢字で「ローマ」を意味し、京都にある大秦(うずまさ)寺は、大ローマ寺といういう意味を有している。

キリシタンの歴史

溝辺教会主任司祭 坂本 進

ています。

「唐の時代にネストリウス派のキリスト教が流行していた」という碑文が、長安において一六二五年、イエズス会神父の発掘によって発見されていますが、この碑には「大秦景教流行中国碑」という碑文が刻まれているのです。景教、それは、中国語で「光輝く教え」を意味し、ネストリウス派キリスト教は、中国で、いつしか「景教」と呼ばれるに至りました。このことについて、世界的に著名な景教研究の第一人者、元東京文理大学学長の佐伯好郎博士(注2)、京都大学名誉教授池田栄博士の研究に詳しく述べられています。

(注2) 佐伯好郎『景教

の研究』一九三五年 東方文化学院
同『支那基督教の研究』一九四三年 春秋社 復刊
一九七九年

ジョン・スチュアート『東洋の基督教景教東漸史』賀川豊彦訳 一九四〇年 豊文社

森安達也『キリスト教史3・東方キリスト教』一九七八年 山川出版
神直道『景教入門』教文館 一九八一年

ネストリウス派キリスト教は、四三一年エペソ公会議においてローマ教会から破門を受けていたのですが、一九九七年に、一五五五年ぶりにローマ教会と和解となり、ヨハ

ネ・パウロ二世とマル・ディカン景教大主教は、ウインにおいて和解しました。キリストを信じる教義において、ネストリウス派は、ローマ・カトリックと若干の違いを有してはいませんが、人間の救いを説く点において、なんら異なるところはありませぬ。

この秦氏によって伝えられたネストリウス派キリスト教の教えが、飛鳥時代や奈良時代の日本に、文化として伝承したと云われているのです。次のような伝承が伝えられています。

「聖徳太子を聖人とさせるために、太子の幼名・『うまやどの皇子』を、キリストが馬小屋で生まれたという聖書の逸話に、なぞらえさせるようになっていった」

+KABAYAN SEKSIYON+
"MGA PAGTUTOL SA KREDO"

Para sa nakararaming Pilipinong Katoliko, ang Kredo ay karaniwang isang bagay na sinasaulo ng mga bata sa paaralan o kasama ng katekista ng local na parokya. Ito ay binibigkas-humigit-kumulang nang taimtim, kasabay sa Misa tuwing Linggo. Maaaring bihirang naituro sa mga Pilipino kung papaanong ang **labindalawang artikulo** ng Kredo ay bumubuo ng isang **mahalagang kaisahan**. Subalit mayroon isang problema ang tungkol sa bagay na ito... mga **pagtutol sa Kredo**. Ang isang pangunahing pagtutol ngayon ay para sa maraming Pilipinong Katoliko, ang Kredo ay nananatiling hindi personal, mahirap maunawaan, walang halagang patay na pormula. Sa tulong ng panibagong Katekesis na hinihingi ng PCP II, dapat nating maipakita kung papaanong **ang Kredo ay isang di-mapapalitan pamamaraan para sa pagpapalibago ng ating pananampalataya**. Ipinahahayag nito ang isang personal at pansamayanang salaysay-pananampalataya ng makapangrihang pagkilos ng Diyos sa pamamagitan ng mga nakakapukaw na mga pagsasalarawan at kuwentong hinango mula sa sariling kinasihang salita ng Diyos.

Ang iba nama'y tumututol na ang Kredo at ang doktrinang Katoliko, sa pangkalahatan, ay humahadlang sa Kristiyanong pagkakaisa. Ayon sa kanila, "ang doktrina ay humahati, at ang paglilingkod ay nagbubuklod." Ngunit ang pagsasantabi sa mga katotohanang ipinahahayag ng Kredo ay maaaring humantong sa walang isip na pagkilos dahil kulang ito ng matatag na batayan. **Ibinibigay ng katotohanang mula sa Kredo ang saligang-batayan sa maka-Kristiyanong pamantayang moral** na kinakailangan sa pagpapasya kung ano ang tama, makatarungan at kung ano ang hindi. Ang Kredo sa Latin: **Kredo ay maaaring maihalintulad sa Latin na "cardo," na ibig sabihin ay bisagra, kung saan ang lahat sa pananampalatayang Kristiyan ay nakasalalay.**

Ang higit na seryosong pagtutol sa Kredo ay yaong ginagawa nito ng ang Pananampalatayang Katoliko ay tila tulad ng isang talaan ng mga doktrina at hindi isang personal na pagtatalaga kay Jesu-Kristo. Ngunit mali nitong inihihinalay ang ganitong pananaw na "personal" mula sa katotohanan, ang banal na pagnanasa mula sa mismong paghahayag ng Diyos ng kanyang sarili sa pamamagitan ni Kristo Jesus. Gayunpaman, ang totoo ay marami sa mga bumibigkas ng Kredo nang jabay-sabay sa publiko ang waring hindi nag-uugnay nito sa Biblia. Hindi nila nakikita ang kaugnayan sa pagitan ng Ebanghelyo at ng personal/pansambayanang pagpapahayag ng Diyos kay Kristo sa Kredo. Dahil dito, bigo sila sa pagsunod kay San Pablo: **Hayagan kong ipinangaral ang katotohanan... tungkol sa kani ngningan ni Kristo na siyang larawan ng Diyos... sapagkat ang Diyos at siya ring angbigay-liwanag sa aming mga isip upang makilala ang kadakilaan ng Diyos na nahahayag sa mukha ni Kristo.** Samakatuwid, inilalapat tayo ng Kredo kay Jesus sa pamamagitan ng paglalagay sa Kanya sa dakilang pagkilos ng Diyos at siyang nagpalaya sa atin mula sa ligaw na kabanalan at posibleng pamahiin.

Katekismo-Pilipinong Katoliko (Fr. Dino Orolfo)

「聖母マリアが夢の中で、救い主イエスの誕生予告を、大天使ガブリエルから受けたという受胎告知伝承の話は、太子の母・間人皇后が夢の中で、救世観音により、救い主・聖徳太子の誕生を予告されたという話に、援用されていた」

また、遣唐留学僧として、中国に渡った僧・空海が、日本にもたらした仏教経典の中には、確かに景教の聖書といえる経典があり、これは高野山大学と京都大学にその資料が保存されており、空海が景教の影響を受けていたかもしれないことが知られるのです。

しかし、日本古代史において、キリスト教そのものが、人々の生活の中に影響を与えるものとなっていたのかといえ、その影響ははなはだ薄かったものといわねばなりません。キリスト教が既に伝えられていたとしても、その影響は生活にはほとんど皆無に近かったといわれてよかったです。

スーさんの「やさしい言葉」③
光に向かって

もう随分と昔のことになりませんが、あるとき一人の初老の男性と話をする機会がありました。その男性は洗礼を受けながらも長い期間、教会から離れていたようです。私にその理由を尋ねると、彼は一言「私のような罪人が教会に足を踏み入れるなんて」と呟くように言葉を濁したことを今でもはつきりと覚えています。この男性の言葉に共感できる方は少なからずいるのではないかと思われます。

さて、前回は「光が何かを私たちに見せてくれている」ということを書きました。何かが見えるとき、見る自分と見えるもの、そして見せてくれる光があるからこそ何かが見える、という内容でした。確かに、光は私たちに何かを見せる、という大切な役目を果たすものです。しかし、光は見たくないものまで見せてしまう、という働きもしてしまうのです。えてして洋服のシミや皺は部屋の中では気付かないものです。明るい陽射しのもとで、それらに初めて気

付いてびっくりした経験がある方もいるでしょう。「知らぬが仏」という言葉があり、果たしてこのシミや皺に気付かなかった方がよかったです。イエス様を信じる信仰者の歩みは光であるイエス様へと導かれることでもあります。だからこそ、イエス様に近づけば近づくほど自分の心のシミや皺に気付いてしまうのです。言い換えれば、私たちは日々、光源であるイエス様に向かって歩いているからこそ自分の弱さや至らなさ、そして罪深さを知ってしまうのです。それは信仰者としての深まりであり、イエス様により近づいたことの証でもあります。

私たちは自分の罪に気付くからこそ回心ができるのです。また、その罪を赦して下さる方を信じているからこそイエス様と共に生きることができのです。イエス様が遣わされたのは私たちを裁くためではなく、私たちを救うため、即ち、ご自分のところへと引き寄せて下さるためなのです。



大震災被災者に祈りで寄り添う!

大熊小教区教会学校キヤン

毎年恒例の教会学校キヤン プを今年は趣向を変え、浦上教会敷地を利用して七月三十日(土)〜三十一日(日)、一泊二日で「東日本大震災追悼と再生を願う祈



り」と題して実施しました。テーマは「神様、助けて下さい」で、乳幼児から高校生までの三十五人の子どもたちに大人も加わりました。そして今年は、大好きな海水浴と花火を我慢するというものでした。

一日目はバーベキューの後、中庭中央で、シナイ山で燃える芝の中の神と対面したモーセの様子を再現したキヤン プファイヤーに火を入れ、ルルドの前に十字の形に並べたテールがカップローンクをささげてロザリオの祈りを唱えました。日が暮れるにつれ幻想的な雰囲気にかま

島地図に貼り付けました。三つのグループで行った作業の最後、それらを一つにつなぐと日本列島にハートでつないだロザリオが浮かび上がり、皆で歓声を上げました。その後、大震災追悼や復興を願う意向でミサがささげられました。ミサは朗読、共同祈願、奉納、聖歌の伴奏などすべて子どもたちの手によるものでした。その後、八月踊りやゲームを通して子どもたちは学年を越え、家族的な雰囲気

を満喫していました。開催当日は、新潟では豪雨災害が発生するなど、あらためて人間の自然に対する無力さを感じるとともに、そのことが神への祈りの叫びとなることを感じました。被災地で直接お手伝いすることができないものどかしさがある中で、祈りの力で彼らと寄り添うことができることの実感を子どもたちと共にこの集いで得られたような気がします。(報告・嘉元伸一)

愛してください「アヴェ・マリアの祈り」

6月14日付で司教協議会が承認

日本カトリック司教協議会は六月十四日付で、「アヴェ・マリアの祈り」正式口語訳を承認した。

これはかつての文語による「天使祝詞」や口語の「聖母マリアへの祈り」が信者の日常に浸透していく一方、聖書のことばに基づく「アヴェ・マリア」のラテン語原文にできるだけ忠実な口語訳を作成して欲しいという要望にこたえてのもの。この要請を受けた司教協議会は、「アヴェ・マリアの祈り(試用版)」を作成し、昨年十二月から今年三月まで試用し、意見を求め

てきた。集められた意見をもとに再検討を重ねた司教協議会は、以下の祈りを承認し、今後は従来の文語による「天使祝詞」や「聖母マリアへの祈り」は、公式には用いない旨を伝えている。「アヴェ・マリアの祈り」アヴェ、マリア、恵みに満ちた方、主はあなたとともにおられます。あなたは女のうちに祝福され、ご胎内の御子イエスも祝福されています。神の母聖マリア、わたしたちを救うために、今も、死を迎える時もお祈りください。アーメン。

久しぶりの交流に歓声! 糸永司教を迎えた加世田教会



八月七日(日) WYD 参加のため不在の主任司教の代わりに、糸永真一名誉司教が加世田教会でミサをささげてくださった。説教の中で糸永司教はこの日の福音から「湖を歩いたペトロは強い風に恐怖を感じイエスに助けを求めた。いつでも手を差し伸べてくれるイエスだが、私たちは決してあきらめず最後までイエスを信じる者にならなくてはならない」と励ましてくださった。ミサ後は昼食会となり、和やかなひとときを過ごされた糸永司教は「久しぶりに小教区の皆さんと直接会えてとても有意義だった」と語られた。ミサに参列した加世田の信者たちは、来年司教叙階六十年を迎える糸永司教の益々の活躍を祈り、散会した。(報告・川口茂)

短信

▼ザビエルウオーク 青年主催によるザビエルウオークが七月二十四日(日)午後、約三十人の参加で実施された。鹿児島に上陸した聖フランシスコ・ザビエルを徒歩と祈りで偲ぶこの催しは、ここ数年、ザビエル上陸記念祭の中で実施されてきた。しかし今年、中心となってザビエルウオークを企画してきた青年たちがスペインで開催された WYD 参加で記念祭



当日に不在のため、ザビエル上陸記念祭と切り離して

の実施となった。猛暑の中ザビエル教会を出発した巡礼団は、途中、聖ザビエルが忍室和尚と交流した福昌寺に立ち寄り、祇園ノ洲にあるザビエル上陸記念碑を目指した。▼マリア山荘黙想会 八月十三日(土)午後から翌十四日(日)の午前中まで、マリア山荘黙想会が開かれた。今回の指導は教区本部の寝占敦之神父で、テーマは「聖母マリアの信仰」二日間て延べ二十人の参加者があり心静かに祈るひとときを体験した。

集いと研修

- ホリスティック(人格)医療黙想「ホリスティック聖書講座」 テーマ「心ひとつで人生は変えられる」 9月26日(月)10時~12時 ザビエル教会1Fホール 500円 *聖書持参のこと。TEL 090-3193-0148 (古城)
- ホリスティック・スピリチュアルケア講座「ホリスティック聖書講座」 テーマ「心ひとつで人生は変えられる」 9月20日(火)18時30分~20時30分 ザビエル教会集会室 500円 *聖書持参のこと。TEL 090-5739-4650 (松崎)
- みことばと祈りの集い 9月19日(月)10時~17時/9月20日(火)9時~14時 裏辻洋二神父(イエズス会) 教区本部2F 1日1500円 聖書持参のこと。TEL 090-4587-2187 (柳)
- 神の愛、人生の意味を探る時間を共有する「アルファコース」 9月1日開始 毎週木曜日10時~13時 ザビエル教会ホール TEL 090-4587-2187 (柳)

9月の会と催し

| | | |
|-----|-----|------------------------|
| 29日 | (木) | 使 |
| 28日 | (水) | 聖ミカエル |
| 27日 | (火) | 松永正男神父叙階記念日(一九五九年) |
| 25日 | (日) | 世界難民移住移動者の日(献金) |
| 23日 | (金) | ダニエリ神父命日(二〇〇三年) |
| 21日 | (水) | 聖マタイ使徒福音記者 |
| 20日 | (火) | 奄美例会 |
| 19日 | (月) | レデンプトル会例会 |
| 18日 | (日) | 奄美の宣教司牧を考える会 |
| 17日 | (土) | 鹿兒島教区司教座教会献堂記念日 |
| 15日 | (木) | ロベルト神父命日(聖ロベルト) |
| 14日 | (水) | 年間第二十五主日 |
| 13日 | (火) | 糸永真一名誉司教司教叙階記念日(一九五二年) |
| 12日 | (月) | 定例司祭集会・教区本部・16時 |
| 11日 | (日) | 司祭評議会・教区本部・10時 |
| 11日 | (日) | 看護協会血圧測定・加世田教会 |
| 11日 | (日) | 教区の日・カテドラル・10時30分 |
| 11日 | (日) | 年間第二十四主日 |
| 8日 | (木) | 七田和二郎神父命日(一九八九年) |
| 5日 | (月) | 聖マリアの誕生 |
| 4日 | (日) | レデンプトル会黙想会・9日 |
| 3日 | (土) | 年間第二十三主日 |
| 1日 | (木) | 川淵勇神父命日(一九九七年) |

被災地支援ボランティア活動を終えて

奄美カトリック女性連盟 会長 久保正子

七月十三日から、仙台司教区の元寺小路教会で「日力連」の役員会があり、その中で十四、十五日の両日支援ボランティアに参加させてもらいました。

十四日午前六時に仙台駅を出発、カリタスジャパンのサポートセンターのベイスキャンに相当する「塩釜カトリック教会」に向かいました。

サポートベースには、東京のサレジオ学園の高校生チーム十五、六人が「試験休みなので応募しました」と、また大阪や東京から学生時代の仲間で「休暇を取り合ってきました」という女性グループ三人、単独参加の方五人が既に活動していました。十四日桂島、十五日に寒風沢島(サブサワ)へ船で移動しての作業でした。作業中に見た瓦礫の山、残された建物の基礎部分、建造物だけでなく、人々の生活そのものが

津波にさらわれたのだと実感され、胸の震える思いがしました。

島で聞いた被災者の話は、「海苔や牡蠣の養殖棚も機械も工場も流され、生活基盤が根こそぎ持つていかれました」で、途方にくれている様子が実感されるものでした。

被災地の様子はテレビで度々目にしており、大変な災害であることは理解しているつもりでしたが、実際に現場に入ってみると、まるで感覚の違うものでした。ウジのわいた汚物、マスク無しでは歩けない耐え難い悪臭、煩わしくまとわりつくハエ、現場に入るという事は、五感全部で被災者と悲しみを分かち合い向き合うことだと実感しました。

遅々として進まない瓦礫の処理や、農・漁業と産業の復興が一日も早くできるように、安心して暮らせる

日が来ますように祈らずにはいられません。今回私が入れていただいた塩釜地区の離島は、陸続きでないために支援の手が遅れています。寒風沢島からの帰りの船で話してくれた男性

は「田んぼの補修の支援を市に要請したが島までは行けないと断られ年若い父親と二人で何とかやりました。皆さんが来てくれたことに感謝です」と言っていました。一瞬にして何もかも失う人生、一瞬ということの恐ろしさ、惨さ、現場に入ってみて理解できたように思います。

でも、瓦礫の中から芽を出している草、花、神の計らいはここから希望を見つ

け出してゆけということなのでしようか？私のつたない信仰では分かりませんが、塩釜の教会、しかも聖堂に寝かせていただき、神に守っていただきながらのボランティア活動でした。塩釜教会の信徒の皆様ありがとうございました。どうぞお疲れになりませんように、一日も早く平和がきますようにと祈りながら塩釜をあとにしました。

が宣言なきつた新しい福音宣言を渴望しています。彼は何百万という青年たちを集め、世俗化された社会で復活されたキリストの証人になるように呼びかけ続けました。ベネディクト十六世もケルンで同じことをなさいました。キリストご自身、私たちが絶えず招いておられます。「目を上げて畑を見るがよい。色付いて刈り入れを待っている」(ヨハネ四・35)(ミカエル・スアレス神父)

を、横木は隣人愛を表しています。回心はいつも真理への呼びかけです。人間は孤立したものではありません。人間は本在するものです。人間は本来ひとりでは生きられない生き物です。教会(共同体)は「私の父の家」(ルカ三・49)です。従って、私たちは皆、本当の兄弟なのです。教会の外側にいる人々がキリストの共同体に足を踏み入れるとき「私があなた方を愛したように、互いに愛し合いなさい」(ヨハネ十三・34)というキリストの言葉が実現しているか否か瞬時に分かるでしょう。(ミカエル・スアレス神父)

世俗化(無神論社会)について思う

大熊小教区浦上教会 平三國

●キリシタンの故郷・長崎で「ぼくの家は昔はカトリックだったけど、今は、お婆ちゃんだけが教会に行っている」といった、信仰が過去の遺物であるかのような危険な考え方を生み出しています。心理学、医学、気象学などにおける技術的な進歩により、多くの人々は、もはや神は必要なくなつたと考えています。神が存在するか否かという問題は時代遅れのこととなりました。現実人間は神なしでも完璧に上手に生きていけると信じている人は少なくありません。この意味では世俗化は無神論と同義語と言えます。(聖母の騎士誌「世俗化とは何か?」ミカエル・スアレス神父)

●「わたしの思いはあなたの思いと異なり、わたしの道は、あなたたちの道と異なる」と主は言われる。天が地を高く超えているように、わたしの道は、あなたの道を、わたしの思いは、あなたの思いを高く超えている」(イザヤ書五五・8-9)

●人間の考えや心を作り上げた生活習慣や行いは常に神ご自身が望んでおられるものから外れてしまっているからです。言い換えれば、この地上の人間の世界のありさまは神の国の姿から大きく異なっているのです。だから現在でも、常に神ご自身の思いや考えを偽りなく伝える預言者が必要なのです。教会も司教も司祭も信徒もすべて預言者でなければなりません。(池長潤大司教)

●長崎の場合、今やほんの少しの若者しかミサに来ていないという実情があります。二百五十年もの長い間、徳川幕府の迫害が果たしえなかつたことを、世俗化が二、三十年程でやつてのけようとしています。(ミカエル・スアレス神父)

●「あなた方には世で苦難がある。しかし勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」(ヨハネ十六・33)

●公会議から四十年、公

ザビエル書院の窓

原文校訂による口語

聖書(フランシスコ会聖書研究)完成!



サンパウロ A5判上製(新・旧約全編網羅、合本のための表記統一、小見出し目次、注の見直し・簡略化、地図とイラスト適宜収録など)

期間限定価格 7,000円

12月31日まで

●「わたしの思いはあなたの思いと異なり、わたしの道は、あなたたちの道と異なる」と主は言われる。天が地を高く超えているように、わたしの道は、あなたの道を、わたしの思いは、あなたの思いを高く超えている」(イザヤ書五五・8-9)

●人間の考えや心を作り上げた生活習慣や行いは常に神ご自身が望んでおられるものから外れてしまっているからです。言い換えれば、この地上の人間の世界のありさまは神の国の姿から大きく異なっているのです。だから現在でも、常に神ご自身の思いや考えを偽りなく伝える預言者が必要なのです。教会も司教も司祭も信徒もすべて預言者でなければなりません。(池長潤大司教)

●長崎の場合、今やほんの少しの若者しかミサに来ていないという実情があります。二百五十年もの長い間、徳川幕府の迫害が果たしえなかつたことを、世俗化が二、三十年程でやつてのけようとしています。(ミカエル・スアレス神父)

●「あなた方には世で苦難がある。しかし勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」(ヨハネ十六・33)

●公会議から四十年、公

●「わたしの思いはあなたの思いと異なり、わたしの道は、あなたたちの道と異なる」と主は言われる。天が地を高く超えているように、わたしの道は、あなたの道を、わたしの思いは、あなたの思いを高く超えている」(イザヤ書五五・8-9)

文芸

純心学園 川上 和
明けの空天地創造描きゆく御手の業や光となれり

純心学園 川上 和
千羽鶴燃えし乙女へ飛んで行け

愛光園 春山マリ子
園に来てこれが最後の幸せと思う心に草むら眠る

愛光園 春山マリ子
父恋いし夏に向いて声高く

瀬戸内町 豊島 忠司
孟蘭盆の最中に提灯飾られて港祭りのポスター貼らる

霧島市 政ノブ子
青田風なびく棚田の日毎濃し

出水市 沖 弘子
歌ミサの堂に入り来る蟬時雨

始良市 みはら せい
姉の終戦

奄美市 林 常広
ひとつ橋同じ流れで二つの名

「武装解除」という
耳慣れない言葉に

純心学園 山頭 信子
緑陰やルルドの椅子に読書かな

親かむりをして
驅け戻った日

露草を画用紙につけ絵かきする

長病みの姉は
父から順に枕元に呼んだ